

第2章 現状と課題

2.1 前期計画の取組状況

これまで本市では、平成 14 年度に策定した「宇都宮市自転車利用・活用基本計画」、その取組を踏まえ、平成 22 年度に策定した「宇都宮市自転車のまち推進計画（前期計画）」、平成 27 年度に策定した「宇都宮市自転車のまち推進計画（後期計画）」に基づき、安全・快適な利用環境整備やサイクルスポーツの推進、自転車を活用した健康増進、公共交通との連携強化など、幅広く自転車を利用できるよう様々な取組を進めてきました。

第 2 章では、これまでの取組を踏まえ、さらなる自転車の活用推進を図るため、令和 3 年度に策定した「第 2 次宇都宮市自転車のまち推進計画（前期計画）」に基づき実施してきた 5 年間の取組について、評価を行います。

1) 前期計画の目標と施策体系

「第 2 次宇都宮市自転車のまち推進計画」では「基盤づくり」・「意識向上」・「機会づくり」の目標を達成するため、6 つの基本施策（プロジェクト）を設定し、柱ごとに位置付けた施策・事業の推進により、「自転車のまち宇都宮」の実現を目指しました。

基盤づくり	○ 自転車で安全・快適に移動できる走行環境を整備する	自転車ネットワーク整備プロジェクト
	○ 自転車と公共交通が連携した利便性の高い移動環境を整備し、自転車と公共交通の利用促進と過度なクルマ依存からの転換を図る	公共交通連携プロジェクト
意識向上	○ 交通ルールの遵守やマナー向上など、安全・安心に自転車を利用する意識の向上を図る	安全・安心プロジェクト
	○ 通勤・通学など日常生活で自転車を利用する意識の向上と利用促進を図る	生活利用・健康プロジェクト
	○ 自転車を活用した健康づくりの意識を高め市民の健康増進を図る	
機会づくり	○ サイクルスポーツやサイクルツーリズム等を活用し、自転車を楽しむ多様な機会を提供する	サイクルスポーツ・ツーリズム推進プロジェクト
	○ メディア等を活用した情報発信により、施策・事業の認知度向上を図るとともに、「自転車のまち宇都宮」に対する市民の認知・信頼・愛着を高める	自転車のまち PR プロジェクト

前期計画の目標と施策体系

2) 基盤づくり

① 自転車ネットワーク整備プロジェクト

自転車が安全に走行できるよう、自転車専用通行帯や矢羽根型路面表示などの整備を進めてきました。令和7年度末までの整備延長は93.1kmとなり、将来目標値123.3km（令和12年度）の75%を超えるなど着実に整備を進め、安全性の高い自転車通行環境を創出してきました。

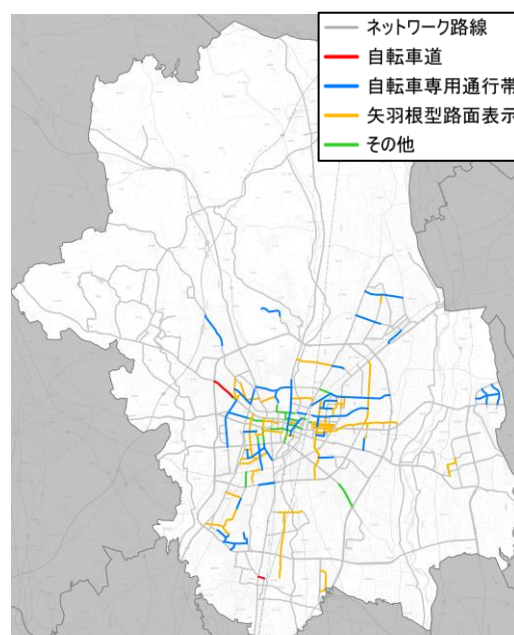
自転車通行空間の整備延長（km）

実績値				目標値	
H23	H27	R2	R7	R7	R12
14.5	21.7	51.3	93.1	87.3	123.3

自転車通行空間の整備状況（km）

整備形態	市道	県道※	国道※	合計
矢羽根型路面標示	55.2	14.6	19.0	77.0
自転車専用通行帯	31.1	7.1	0.6	38.8

※県道、国道は令和7年3月末の実績



自転車通行空間の主な整備実績

サイクリングロード（鬼怒川、田川、山田川）については、計画的に整備を進めており、田川サイクリングロードは令和8年度に整備完了を予定しています。

このように、自転車を安全・快適に利用できる環境整備を進めてきましたが、市民の「自転車走行空間整備の満足度」は中間目標値27.7%（令和7年度）に対し、20.0%と低調な状況です。

自転車走行空間整備の満足度

実績値		目標値	
R1	R7	R7	R12
19.3%	20.0%	27.7%	36.0%

また、自転車通行空間を設置して一定年度の年数が経過した路線の中には、路面標示の劣化により視認性が低下している路線もあり、自転車利用者が本来通行すべき場所を認識しにくい状況もあります。

自転車ネットワーク整備プロジェクトの課題

- ・整備延長の拡大だけでなく、市民が満足する通行空間整備が必要です。
- ・自転車利用者が本来通行すべき場所を正しく通行できるよう、視認性が低下した路面標示などへの対応が必要です。

② 公共交通連携プロジェクト

自転車と公共交通が連携した利便性の高い移動環境を形成するため、鉄道駅やライトライン停留場、バス停留所周辺において駐輪場の整備を進めるとともに、市営駐輪場へのキャッシュレス決済導入などの利便性向上に取り組んだことで、市営駐輪場及びライトライン駐輪場の利用者数はコロナ禍の減少から回復傾向にあります。



ライトライン駐輪場
＜清原 TC 駐輪場＞



市営駐輪場の
キャッシュレス決済機導入

ライトライン停留場付近の駐輪場については、本市内の停留所 15 か所のうち JR 宇都宮駅駐輪場の利用圏域内にある 2 か所（宿郷停留場、駅東公園前停留場）を除く 13 か所すべての停留場付近に駐輪場を整備したことで、利用者が順調に伸びています。一方で、利用率が高く混雑している駐輪場もあり、対策が必要となっています。

交通結節点の駐輪場整備箇所数（箇所）

実績値		目標値	
R2	R7	R7	R12
54	72	77	87

市内駐輪場の利用者数（人／日）

実績値		目標値	
R2	R7	R7	R12
6,121		9,054	9,228

シェアリングモビリティの導入状況

また、中心市街地については、5 か所の市営駐輪場において、レンタサイクル事業を終了し、代わりにシェアリングモビリティの導入を拡大することで、回遊性の向上を図っています。

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
電動アシスト自転車	50 台	100 台	307 台
電動キックボード	30 台	60 台	70 台
合計	80 台	160 台	377 台
ポート数	9 か所	37 か所	132 か所

自転車放置防止対策については、「放置防止指導」の継続的な実施や、定期的な撤去を実施することにより、鉄道駅やバス停留所周辺、中心市街地などの都市環境の向上を図りました。

公共交通連携プロジェクトの課題

- ・ライトライン駐輪場の利用状況については、開業から現在まで、増加傾向にあり、特に利用率が高く混雑している駐輪場への対策が必要になっています。
- ・引き続き各駐輪場の利用状況を調査し、既存の駐輪場などについて、ゆとりある収容台数の確保や利便性の向上に取り組む必要があります。

3) 意識向上

① 安全・安心プロジェクト

基本的な交通ルールや自転車の正しい乗り方などを学んでもらうため、幼児から高齢者までを対象とした交通安全教室の実施、警察と連携した自転車安全利用動画などの教材提供によるヘルメット着用の徹底、高校生に対する交通ルールの遵守働きかけ、自転車利用者に直接安全利用を呼びかける街頭指導などの様々な取組を実施しました。

取組により交通事故件数は近年、減少傾向にありますが、令和6年は高校生が関連する事故が前年に比べ増加し、高校生側が自動車などに巻き込まれる高校生側に法令違反のない事故が増加しました。

また、令和8年4月からは、改正道路交通法の施行により、自転車の交通違反に対する交通反則通告制度（青切符）が導入されたことから、自転車の交通ルールやマナーに対する関心が高まっています。



<小学生向け>



<高齢者向け>



<ブリッツェンと連携>

交通安全教室の開催状況

体験型自転車安全利用教室の開催回数（回／年）

実績値		目標値	
R2	R7	R7	R12
91	119	114	－

自転車に関連する事故発生件数（件／年）

実績値		目標値	
R2	R7	R7	R12
484	365	270 以下	－

安全・安心プロジェクトの課題

- ・幅広い年齢層に対して、自転車利用者はもとより、自転車利用者以外にも交通ルールやマナーの周知を図っていく必要があります。
- ・特に令和8年4月の改正道路交通法施行により、自転車利用における規定の交通違反が交通反則切符（青切符）の対象になったことを踏まえ、改めて制度の周知を徹底するとともに、法令遵守の重要性を周知啓発していく必要があります。

② 生活利用・健康プロジェクト

環境負荷の低減や交通渋滞の緩和などが期待される「自転車通勤」を促進するため、企業などと連携した周知啓発や企業に対する講座の開催などに取り組みました。

自転車を活用した市民の健康増進について、健康ポイント事業などを活用した自転車による健康増進の促進、プロスポーツチームなどと連携した介護予防教室の開催を行いました。その結果、健康ポイント登録者における自転車の1日あたりの平均走行距離は、中間目標値を大幅に上回りました。

災害時における自転車活用について、被災時の自転車などによる職員の参集を位置づけ、研修などを活用して周知しました。



出前講座「自転車通勤のススメ」



健康ポイント事業登録者における自転車の
1日あたりの平均走行距離 (km/日)

実績値		目標値	
R2	R7	R7	R12
2.9	5.8	3.3	3.7

健康のために意識して身体を動かす成人の割合
(%)

実績値		目標値	
H29	R5	R4	R12
男性：56.2 女性：48.3	男性：55.4 女性：41.2	男性：63.0 女性：60.0	—

生活利用・健康プロジェクトの課題

- ・市民の健康ポイント事業への参加促進を図るとともに、自転車利用による健康面でのメリットの効果的な周知や通勤時の自転車利用の促進など、自転車を活用した健康づくりを促進し、市民の健康づくりに対する意識向上を図る必要があります。

4) 機会づくり

① サイクルスポーツ・ツーリズム推進プロジェクト

「自転車のまち宇都宮」のブランド力向上に向け、宇都宮ジャパンカップやシクロクロスを開催しています。また、ジャパンカップを活用した体験イベントや民間主体のサイクリイベントの実施、BMXなどのサイクルスポーツを楽しめる環境の整備により、サイクルスポーツの振興に取り組みました。その結果、令和7年には、自転車競技・サイクリイベントによる経済波及効果が過去最高になるなど、計画以上の成果となりました。

また、栃木県や関係市町、Astemo 宇都宮ブリッツェンなどが連携し県内に設定した4つのサイクリングモデルルートのうち、「おにハチ」及び「ルート NIKKO」に参画し、環境整備を実施しました。その他、市内観光地などにおける自転車での周遊促進、サイクリングルート沿線の休憩スポットや宮サイクルステーションの充実など、サイクリストへの支援を通じて、サイクルツーリズムを推進しました。



宇都宮ジャパンカップ（ロードレース）



シクロクロスの開催（R5、R6、R7 宇都宮開催）

自転車競技・サイクリイベントの開催数
（回／年）

実績値		目標値	
R2	R7	R7	R12
16	29	20	23

自転車競技・サイクリイベントによる経済波及効果
（ジャパンカップ）（億円／年）

実績値		目標値	
R2	R7	R7	R12
—	35.8	28.5	29.0

サイクルスポーツ・ツーリズム推進プロジェクトの課題

- ・ジャパンカップを活用したサイクリイベントの拡充に取り組み、引き続き、市民が身近にサイクルスポーツに親しめる機会を提供するとともに、自転車と本市が持つ地域資源や観光資源とを掛け合わせたイベントなど、ジャパンカップ以外のイベントの実施により、誰もが自転車を楽しめる機会の充実を図る必要があります。

② 自転車のまちPRプロジェクト

プロスポーツや多様なメディアを活用した情報発信や宮サイクルステーションの情報発信機能の強化、自転車マップの配布などにより、「自転車のまち宇都宮」のPRを行いました。その結果、「自転車のまち」の認知度に関しては、安定した推移ではないものの、目標値を超える年度もあり、概ね目標を達成できています。



Youtube アカウントへの動画投稿



大会フォトグラファーと連携した
SNS を活用した情報発信

パブリシティ等の情報掲載件数（回／年）

実績値		目標値	
R2	R7	R7	R12
130	408	160	195

「自転車のまち」の認知度（％）

実績値		目標値	
R2	R7	R7	R12
10.6	13.0	13.2	15.0

自転車のまち PR プロジェクトの課題

- ・より根強く「自転車のまち宇都宮」を認知してもらうとともに、ファン層拡大などの裾野の拡大を図るため、「自転車のまち宇都宮」のブランド力向上に向けて、ジャパンカップに関する情報に限らず、自転車関連情報全般のPRの強化に取り組む必要があります。

5) 評価結果

「第2次自転車のまち推進計画」の推進にあたっては、前期計画5年間に於いて、それぞれ施策の進捗状況を評価する「活動指標」と、施策の実施効果を評価する「成果指標」を設定し、毎年取組状況の確認・評価を行ってきました。

① 活動指標

活動指標は7項目あり、交通結節点駐輪場整備箇所数や自転車競技・サイクリイベントの開催数といった指標の数値は若干目標値を下回っていますが、その他の指標については、目標達成に向けて着実に事業が推進されており、概ね順調に推移しています。

前期計画の活動指標の達成状況

指標	実績値		目標値		達成状況 (R7実績)
	R2	R7	R7	R12	
1 自転車通行空間の整備延長	51.3km	93.2km	87.3km	123.3km	◎
2 交通結節点駐輪場整備箇所数	52箇所	72箇所	77箇所	87箇所	○
3 自転車安全利用教室の開催回数	91回/年	119回/年	114回/年	—	◎
4 健康ポイント事業登録者における自転車の1日あたり平均走行距離	2.9km/日 (R1)	5.8km/日	3.3km/日	3.7km/日	◎
5 自転車競技・サイクリイベントの開催数	16回 (R1)	29回	20回	23回	◎
6 広域モデルルートの設定数	0ルート	2ルート	1ルート	2ルート	◎
7 自転車に関するパブリシティ等の掲載件数	130回/年 (R1)	408回/年	160回/年	195回/年	◎

② 成果指標

成果指標は6項目あり、自転車通行空間整備の満足度や健康のために身体を動かす成人の割合といった指標の数値は目標値を下回っています。市民のニーズを踏まえた自転車通行空間の整備、自転車通勤など日常的な自転車利用の促進や健康ポイント事業の普及などの取組の強化が必要です。その他の指標については、目標達成に向けて着実に事業が推進されており、概ね順調に推移しています。

成果指標の達成状況

指標	実績値		目標値		達成状況 (R7実績)
	R1	R7	R7	R12	
1 自転車通行空間整備の満足度	19.3%	20.0%	27.7%	36.0%	△
2 市内駐輪場の利用者数	8,436人/日	8,452人/日	9,054人/日	9,228人/日	○
3 自転車に関連する交通事故件数	484件/年 (R2)	365件/年	260件/年 以下	—	○
4 健康のために意識してから身体を動かす成人の割合	男 56.2% 女 48.3% (H29)	男 55.4% 女 51.2% (R5)	男 63.0% 女 60.0% (R4)	—	△ (R5実績)
5 自転車競技・サイクリイベントによる経済波及効果	28億円	35.8億円	28.5億円	29.0億円	◎
6 「自転車のまち」の認知度	11.4%	13.0%	13.2%	15.0%	○

③ まとめ

前期計画の施策の取組状況や活動指標・成果指標に基づき評価した結果は以下の通りです。

評価結果のまとめ

	評価結果
基盤づくり	・整備延長は順調に伸びていますが、市民の満足度は低調です。 ・路面標示の劣化による視認性の低下などにより、自転車利用者が本来通行すべき場所を認識しにくい状況にあります。 ・ライトライン停留場付近の駐輪場を13か所整備するなど、計画どおりに整備できており、想定以上の利用率となっています。
意識向上	・令和6年については、前年と比較して事故件数が増加しており、自転車ユーザーに非がない事故が増加しています。 ・健康ポイント事業の促進などにより、目標値を下回る結果となったものの、健康のために意識して体を動かす成人の割合は年々増加傾向にあります。
機会づくり	・宇都宮ジャパンカップについては、令和7年度に過去最高の経済波及効果となるなど、計画以上の成果となっています。 ・「自転車のまち宇都宮」のPRの充実は図られたものの、自転車のまち宇都宮の認知度は年度ごとにばらつきがある状況です。

「前期計画の取組状況」からの課題

●基盤づくり

- ・整備延長の拡大だけでなく、市民が満足する通行空間整備が必要です。
- ・自転車利用者が本来通行すべき場所を正しく通行できるよう、視認性が低下した路面標示などへの修繕対応が必要です。
- ・既存の駐輪場などについて、ゆとりある収容台数の確保や利便性の向上に取り組む必要があります。

●意識向上

- ・幅広い年齢層に対して、自転車利用者はもとより、自転車利用者以外にも交通ルールやマナーの周知を図っていく必要があります。
- ・自転車を活用した健康づくりを促進し、市民の健康づくりに対する意識向上を図る必要があります。

●機会づくり

- ・ジャパンカップ以外のイベントの実施により、誰もが自転車を楽しめる機会の充実を図る必要があります。
- ・「自転車のまち宇都宮」のブランド力向上に向けて、ジャパンカップに関する情報に限らず、自転車関連情報全般のPR強化に取り組む必要があります。